

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスLUMO天道校		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 21日		～ 2025年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 1月 21日		～ 2025年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援室の広いスペースで、カラダを大きく動かすことができる	公園や外遊びが少なくなっている中で、安全にカラダを大きく動かすことができる空間があり、スピードの強弱も付けながら運動ができる。	部屋を大きく使う時と部屋を半分にして違う運動を同時に行うなど、環境づくりの変化や刺激も入れていきたい。色々な事に対応する力は社会に出て必要になるため、場所に工夫をより行っていく。
2	児発・放デイと一緒に運動をしていることで、カラダだけでなくココロの成長も同時に育まれている	指導員が1～10まで伝えるのではなく、子ども自身が考える環境を作っている。また、学校や園以外の子ども同士の交流を増やすために、ペアワークや協力して準備や片づけを行ってもらっている。	通ってくれている期間や年齢に関係なく、子ども自身が挑戦できる環境を作っていく。子どもが選んで、考えて、解決できるように努める。
3	スタッフの経験や知識の違いから、原始反射を基にそれぞれの視点で子どもと関わっていること。	運動に詳しい人や子どもに寄り添って背中を押せる人・子育て経験から子どもにも保護者の立場になって関わる人など、LUMOの中で共通の言葉はあるものの一人ひとりの言葉や色を大切にしている。そうすることで、お子様の中の経験や思考の幅を広げていきたいと思っている。	経験や知識が違うからこそ、ともに刺激をして新しい運動や関わり方を生み出していく。それが、子どもの可能性を引き出すきっかけになったり・楽しさに繋がっていく。目に見える部分の成長だけでなく、感覚の部分や脳にもっと刺激を入れて、子どもの生きる力や自立を後押しする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	午前のクラスは、保育園お迎え・お送りの場合もあるため、保護者の方と直接話をする機会が少ない	カラダや脳に刺激を入れるタイミングは、出来るだけ早い方がいいため、保育園の中抜けを利用してくださっている方もいる。直接お会いすることが少ないからこそ、子どもの成長を伝えるためにLINEで動画や様子を伝えるようにしている。	テキストや動画だけでなく、電話をかけて話す時間も設けていく。
2	事業所の前がすぐ道路なのと道も狭くなっている。	玄関のドアを開けることや先頭になるのは大人にしているが、子どもも「早く外に出たい」気持ちもあるため、安全面は整備したい。	夕方のクラスの後のフィードバックを室内で行うように変更したが、もっと良いやり方があるかもしれないためBUしていく。
3	夕方のクラス終了後の送迎がない		送迎については行う予定はないが、ニーズに柔軟にお応えできるよう運営体制は日々検討していく。